

2022年度 自己評価 結果及び対策・改善報告書

評価項目	評価結果 及び 対策	改善結果（進捗状況）
I、環境・体制整備について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルスの感染対策として昨年度に引き続きマスクの着用、手指消毒、室内・玩具消毒、給食時のフェイスガードの着用、3密の回避等行ってきた。また、館内へのウイルスの持ち込みを極力減らす目的として、県や市の感染レベルに合わせて子どもの受け入れ方法や行事、見学の実施について対応をしてきた。</li> <li>・ 職員体制については、今年度上半期、職員の急な退職に伴うクラス担任の変更があったため、保護者様には不安を与えてしまった。基準以上の配置をしているが、経験の浅い職員が多いため様々な業務に時間を要しており、職員育成は喫緊の課題である。</li> <li>・ ボランティアの協力をいただくことができ、子ども達、職員にとって大きな力となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染状況に合わせた施設の対応はその都度お便りやメールにて情報発信させていただいた。対策をとる中で生じる保護者の不安やご意見にこたえられるよう、送迎時のコミュニケーションや連絡ノートの活用等、積極的に行ってきた。</li> <li>・ 職員体制については、基準以上の配置ができるように努めている。職員育成については、今年度も取り組んできているが、次年度に向けても継続的かつ効果的な研修やPDCAサイクルの実践に取り組んでいきたい。また業務の効率化も並行して行い、全体的な業務量の調整や負担軽減などに取り組む、職員の働く環境もより良いものにしていきたい。</li> <li>・ 感染対策にご協力いただき、安心、安全に参加していただけるよう配慮している。今後も引き続きボランティアの参加を募っていく。</li> </ul>
II、業務改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度に引き続き、職員全員参加の療育勉強会を年4回実施した。療育での</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も職員の実践力の向上、虐待防止、職員同士の</li> </ul>

	<p>悩みや疑問、互いの価値観などを共有する機会となった。さらに虐待防止に関する研修として、資料の読み合わせや、クラス活動の参観と意見交換等、子どもへの対応の検討や不適切なかわりに気づいたり改善したりする機会を設けることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、業務分掌をマニュアルに沿って計画的に進めていけるよう取り組んできた。若手職員が多く職員一人ひとりへの業務負担が残業につながっている。</li> </ul>	<p>価値観の共有やコミュニケーションの機会として計画的に実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>センター開設から6年経過し、業務分掌の内容が複雑になってきているため、次年度に向け抜本的な見直しを進めていく。</li> </ul>
<p>Ⅲ、適切な支援の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスについては、半期に一度、発達スケールで確認された発達段階を基に5クラス編成としている。保護者への説明を丁寧に行い、安心して通えるよう努めている。</li> <li>療育活動については、子どもの発達段階に沿って、クラスの活動計画(年間、月案・日案)を立てること、またこどもの主体性を引き出す活動を意識し立案することを目指しているが、時間的、質的要因によりPDCAサイクルの安定が難しい時期があり、課題であると感じている。</li> <li>保育所等訪問支援の職員との情報共有を定期的に図ってきた。並行通園児の在籍が多いクラスでは情報を理解することにどまり、支援につなげることが難しい場面が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も発達に合わせた療育が実施していけるよう発達段階を確認し、根拠をもって取り組むことと、保護者への説明を丁寧に行っていきたい。</li> <li>根拠を持った活動や関わりができるよう、OJTの機会を作ることや、事前の共有、事後の振り返りなどの時間を作れるよう時間の使い方の見直しを行っていく。</li> <li>次年度、並行通園児の多いクラスについては職員体制を見直すことや、担任が訪問支援に行く機会を作る等、支援につなげていく形を検討する。</li> </ul>
<p>Ⅳ、関係機関や保護者との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就園前、療育の頻度変更時、就学先の検討等、ケースの状況に応じて園や学校、関係機関と積極的に連携(サービス担当者会議)を図ってきた。</li> <li>移行支援として毎年年長児保護者を対象に任意でサポートノートを作成して</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や園の意向について、施設内での情報共有と関係機関との連携をもれなく進めていけるよう仕組みを整えていきたい。</li> </ul>

	<p>きている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はかるみあの待機児を対象に 5 組の保護者に対し、ペアレントプログラムを実施した。今回は託児のサービスも含めることで参加できる保護者も増え、和気あいあいとした雰囲気で行うことができた。改めて対面で行う良さを感じた。</li> <li>・今年度は、近隣園と防災訓練を一緒に行ったり、未就園児を対象に交流会を実施した。地域園との交流は園に通った経験のない児にとって貴重な経験となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も、ペアレントプログラムは対面形式で行う。</li> <li>・次年度も感染状況に留意しながら交流をしていきたい。</li> </ul>
V、保護者への説明責任等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も感染状況を見ながら、オンラインや対面での保護者会を行ってきた。</li> <li>・今年度も保護者とクラス担任の個別面談(キラキラタイム)を全員が公平に実施できるよう案内したが、希望にばらつきがみられた。</li> <li>・保護者支援として、日々の連絡ノートでのやり取り、送迎時の様子の報告、お便りの発行等を充実させ、かるみあでの様子や取り組みを知っていただくことや、グループキラキラでの横のつながりの場の提供、保護者の求めに応じて相談に対応するなどしてきた。保護者支援においては、職員の基本的なハウレンソウや対人スキル、相談支援スキルの向上が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との関係構築を大事にし、どんな相談にも真摯に対応していく姿勢を大切にしたい。</li> <li>・引き続き保護者とのコミュニケーションを様々な方法で行っていく。また、基本的な報連相の徹底を図り、保護者との信頼関係を築いていく。</li> <li>・職員のスキルアップについては、目標参画やラダーなどを利用し、職員自身が明確な目標と計画を立てて取り組めるように進めていく。</li> </ul>
VI、非常時等の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練、避難確保訓練、不審者訓練等の定例の訓練は計画的に行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な訓練に加え、様々な状況を想定した訓練を行っていきたい。</li> <li>・虐待防止の研修計画は年間で立案し進めてきたが、職員への周知ができていなかったため、次年度はしっかりと周知したうえで取り組んでいきたい。</li> </ul>

(まとめ)

今年度もコロナ禍の中で、感染対策に留意しながら様々な活動や行事を進めてきました。国の方針がウィズコロナに転換し、当施設でも館内での受け入れ、引き渡しを2年ぶりに本格再開しました。利用者、職員への感染対策の呼びかけ、実践は引き続き行いながらも、この2年間で希薄になってきている人と人とのつながりを再び紡いでいけるよう、日常からのつながりの積み重ねを意識していきたいと思います。

また今年度は施設基準以上の職員を配置しているにもかかわらず、職員体制が安定せず、全体的に残業も多くなっていました。次年度に向けて、まずは業務分掌の見直しで業務の無駄を省き、支援のPDCAサイクルをしっかりと回せる時間を確保します。保護者の想いを大切に、ともに歩む存在となれるよう、利用児の強みを見出し、その強みを活かしたサポートができるよう職員の教育体制を強化します。また、安心安全をお届けできるよう、災害に対応できる事業所となるよう危機管理に努めていきたいと思います。